

## シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

科目ナンバリングについて
こちらを参照してください。
講義コード
1112602-1
授業科目名
社会学Ⅱ
授業科目名(英字)
Sociology II
時間割
後期 月曜日 4校時 L-8 2 1
対象年次及び学年
2年次
担当教員
河合 史子
ナンバリングコード・水準
ナンバリングコード・分野
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)
bcd
ナンバリングコード・提供部局
L
ナンバリングコード・対象学生
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応
ナンバリングコード・授業形態
Lg
ナンバリングコード・単位数
2
関連授業科目
履修推奨科目
学習時間
講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)
授業の概要
人間と自然環境の関係がより豊かで健全なものになるためには、「環境」をどのようなものとして捉えるのか、どのように「問題設定」がなされているのかという視点が重要になってくる。本授業では、我々の生活や生命を支える地球システムのメカニズムへの理解を深めながら、現代社会がどのように自然環境と関わってきたのかという視点も交えつつ環境問題への理解を深める。後半では具体的なテーマを用いつつ、自身で決めたテーマについて調べて分析・考察する機会を設ける。

授業の目的
地球環境のメカニズムについて理解するとともに、地球環境問題をめぐる複数の視点について理解することを目指す。また、具体的なテーマについて自身で情報を集め、考察し、自身の意見を組み立てることができるようになることが本講義の目的である。
到達目標
1. 地球環境システムのメカニズムへの理解を深める 2. 環境問題をめぐる複数の視点を習得する 3. 環境に関わる具体的なテーマについて授業で紹介するシステムや社会学等の視点をを用いながら分析、考察できるようになる
成績評価の方法
授業内活動への参加(25%) (到達目標 1・2・3に対応) チーム発表(25%) (到達目標 1・2・3に対応) 最終レポート(50%) (到達目標 1・3に対応)
成績評価の基準
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
授業計画並びに授業及び学習の方法
第1回：イントロ 第2回：地球環境問題の外観：人新世・プラネタリーバウンダリーなど 第3回：環境問題はどのような問題？：システムの視点（氷山モデル） 第4回：生命をめぐるシステム；スケールを横断する視点 第5回：地球のシステム：太陽系の中の地球 第6回：地球のシステム：炭素循環（二酸化炭素、化石燃料、海洋吸収など） 第7回：地球のシステム：水循環（海、大気、川、地下水など） 第8回：地球のシステム：進化と生物多様性 第9回：先住民文化における人間と環境の関係 第10回： commons の悲劇 第11回：土地や資源は誰のもの？ 第12回：共同管理が成功するコツ？ 第13回：持続可能性を香川大学キャンパスから始める 第14回：持続可能なキャンパスづくりとシステムの視点 第15回：まとめと振り返り
※本科目は「社会学、経済学」区分における一般的包括的内容を含む。第1回から第15回を通して一般的包括的な内容を網羅する。
※この科目は対面形式で実施することを基本としますが、状況によってオンデマンドやオンライン形式に変更する可能性があります。受講生の数や授業の進捗状況等によっては受講生と相談の上、授業の内容を入れ替え・一部変更する場合があります。
【授業及び学習の方法】 講義内容の理解を深めるためのワーク（ディスカッションやグループワークなど）を組み合わせた形式の授業。
【自学自習のためのアドバイス】 （1）環境問題とは何か、ということについて自身の考えを整理する(3時間) （2）人新世・プラネタリーバウンダリーについて配布資料を読み、考えを整理する(3時間) （3）システムの視点（氷山モデル）を用いて自身の興味のある環境問題について分析する(4時間) （4）関連文献を読んでくる(3時間) （5～8）地球のシステムに関するメカニズム等について調べてまとめる、チーム発表の準備をする(合計20時間) （9）先住民文化における人間と環境の関係についての文献を読んでくる(3時間) （10）commons の悲劇について身の回りの状況と照らし合わせて類似例を探してくる(4時間) （11）所有権の根拠について自身で調べ、考えを整理して(4時間) （12）共同管理が成功するコツについて身近な事例等をもとに自身の考えを整理して(4時間) （13）香川大学キャンパスにおける持続可能性に関わる取り組みについて調べる(4時間) （14）他大学等における持続可能性に関わる取り組みについて調べ、システムの視点から分析する(4時間) （15）これまでの授業の振り返りを行い、レポート課題について考えを深める(4時間)
教科書・参考書等
教科書は使用しません。授業中に以下を含めた参考資料を配布します。 ・地球環境学事典、総合地球環境学研究所、弘文堂
オフィスアワー
授業終了後(水曜12:00-12:30)、教室において（他の時間帯を希望の際にはメールで連絡をください）。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
他の専修からの受講も歓迎する。
参照ホームページ
メールアドレス
教員の実務経験との関連

